

ご質問ご意見は下記へお寄せください。

住友精化株式会社

総務人事室(広報)

〒541-0041 大阪市中央区北浜四丁目5番33号(住友ビル)

TEL:06-6220-8508 FAX:06-6220-8541

<http://www.sumitomoseika.co.jp/>

CSR 報告書 2014

Corporate Social Responsibility Report 2014



この印刷物に使用している用紙は、森を元気にするための間伐と間伐材の有効活用に役立ちます。



このCSR報告書は、環境への配慮のため、植物油のインクを使用しています。また、印刷は印刷工程で有害廃液を出さない水なし印刷を行っています。

住友精化の企業理念

経営方針

当社グループは、社会との共存共栄を基本方針とし、
化学の分野で世界に通じる独創的な技術を開発し、
特色のある質の高い製品を国内外へ供給することにより、社会に貢献する。

住友精化グループ行動憲章

1.

住友の事業精神を尊重し、
社会との共存共栄を
はかります。

2.

化学の分野で世界に通じる
独創的な技術を開発し、
特色のある質の高い製品を
国内外へ供給することにより、
社会に貢献します。

3.

国内外の法令、社内規則
ならびに社会の規範や倫理を
遵守し、社会的良識をもって
行動します。

当社グループが目指す企業像

- 成長分野に、特色のある新製品を上市し続ける研究開発型ケミカルカンパニー
- 世界に通じる技術で、グローバルニッチに事業を展開する高収益企業
- 社会的責任を果たし、社員が誇りと生きがいを感じる会社

住友の事業精神

営業の要旨

- 第1条 わが住友の営業は信用を重んじ確実を旨とし、もってその鞏固隆盛を期すべし。
- 第2条 わが住友の営業は時勢の変遷、理財の得失を計り、弛張興廃することあるべしといえども、いやしくも浮利にはしり軽進すべからず。

CSR報告書 発行にあたって

当社グループは、化学物質の開発から製造、物流、使用、最終消費を経て廃棄・リサイクルに至るすべての過程において環境・安全・健康を確保するレスポンシブル・ケア（RC）活動に長年取り組んでいます。このRC活動を軸として、お客様、株主、お取引先、地域の皆様などのステークホルダーの皆様方と当社グループの関わりについて、「CSR報告書」の形で紹介させていただきます。少しでも多くの方に当社グループのCSRの考え方や取り組みを知っていただきたいと考えております。また、今後、更に内容を充実させていきたいと存じます。

なお、本報告書作成にあたり、環境省発行の「環境報告ガイドライン2012」および「環境会計ガイドライン2005」を参考にいたしました。また、RC関連の記載事項については、一般社団法人日本化学工業協会による第三者検証を受審しています。

報告書の対象範囲

対象組織：1.RCパフォーマンスデータは国内拠点のみを対象としています。

2.会社概要、財務データおよびサイトレポートには、連結子会社を含みます。

対象期間：2013年4月1日～2014年3月31日

対象分野：CSR活動およびRCパフォーマンスデータ

発行：2014年9月（次回発行予定2015年9月）

※住友精化グループとは、当社および連結子会社からなる企業集団により、構成されます。

CONTENTS

住友精化の企業理念	01
目次／編集方針	02
トップメッセージ	03

経済活動

暮らしの中の住友精化	05
CSRダイジェスト	07
2013年度の業績	09
中期経営計画「SEIKA PLAN 2015」について	10
会社概要	11
住友精化のCSRマネジメント	12

レスポンシブル・ケア

方針・推進体制	14
活動と実績	15

環境への取り組み

環境保全	17
------	----

安全への取り組み

労働安全衛生・保安防災	19
品質保証	21
物流安全／化学品安全	23

社会との関わり

お客様・お取引先とともに	24
地域・社会とともに	25
株主・投資家とともに	26
社員とともに	27

サイトレポート	30
第三者検証意見書	34

持続可能な社会の形成に貢献し、 皆様から信頼される企業を目指します

本報告書を発行するにあたり、一言ごあいさつ申し上げます。

当社グループは、「社会との共存共栄を基本方針とし、化学の分野で世界に通じる独創的な技術を開発し、特色のある質の高い製品を国内外へ供給することにより、社会に貢献する」を経営方針としています。この方針に基づき2010年に6ヵ年の中期経営計画「SEIKA PLAN 2015」を策定しその実現に向けて取り組んでおりますが、その中で当社グループが目指す企業像を「研究開発型ケミカルカンパニー」、「グローバルニッチに事業を展開する高収益企業」、「社会的責任を果たし、社員が誇りと生きがいを感じる会社」と位置づけています。

中期経営計画『SEIKA PLAN 2015』 実現に向けて

本計画は、当社のあるべき姿、すすむべき方向をとりまとめたものであり、当社の夢を実現するための計画をひとつひとつ実行していくための羅針盤であります。本年は、最終2015年度の前年に当たり、プラン達成のためのまさに正念場の一年です。これまで取り組んできた課題を克服し、不十分な箇所があれば打開策を講じることで最後のチャンスOfYearあります。プラン達成に向けてグループ一丸となって取り組んでまいります。

企業活動の原点である安全の確保について

安全確保、安定操業の維持なくして企業の存続はありません。日頃から「想定外のことを想定する」ことを忘れず、「安全をすべてに優先させる」という基本理念のもと、安全に対する地道な活動を行ってまいりましたが、残念ながら海外工場において休業災害が発生いたしました。災害の原因を究明し、その対策をグループ全体に水平展開するとともに、より管理レベルを向上させるよう、引き続き教育、訓練に注力してまいります。

地球環境保護確保のために

当社グループは、省エネルギーの推進、廃棄物削減、P R T R特定化学物質・揮発性有機化学物質(VOC)の削減、重大環境トラブル“ゼロ”などの環境保全に対する目標を掲げ、様々な諸課題に取り組んでいます。エネルギー原単位の改善にも精力的に取り組んでおり、一定の成果も出てまいりました。引き続き、目標達成に向け、対策を着実に実施し、環境の保護に取り組んでまいります。

当社グループのCSRは、経営方針のもと、人、社会、環境に新たな価値を提供する事業活動を推進し、持続可能な安全で安心な社会の形成に貢献し、皆様から信頼される企業であり続けることであります。そのためには、これまで同様、安全を最優先に「無事故・無災害」の継続に取り組むとともに、コンプライアンスを徹底し、内部統制システムを充実させ、公正で透明な事業活動を推進してまいります。また、国内外で、製品の開発段階から、製造、物流を経てお客様に渡るまでのすべての段階で確実な品質管理体制を構築、維持、向上させ、お客様に安心して安全な製品をお届けいたします。

本報告書では、当社グループのCSR活動の一端をご紹介します。本報告書をご一読いただき、当社グループのCSR活動の考え方と取り組みのご理解を賜るとともに、今後の活動の向上のため、忌憚のないご意見、ご指摘をいただければ幸いです。今後とも当社グループへの更なるご支援を賜りますようお願い申し上げます。

2014年9月
住友精化株式会社
代表取締役社長 上田 雄介



安全、環境、品質に関する経営基本方針

当社は、住友の事業精神に則り、独創性に富んだ高度な技術を駆使し、特色ある質の高い製品とサービスを提供することにより、社会の発展に寄与すること、また、事業の推進にあたっては持続可能な社会の形成に貢献することを使命とし、「安全をすべてに優先させる」ことを基本に、「無事故・無災害」、「顧客重視」、「社会との共存共栄」を経営の基本理念として活動している。この理念に基づき、最優先課題として、レスポンス・ケアの精神に従い、以下の事項に取り組む。

- ① 無事故・無災害の継続により、従業員と地域社会の安全を確保する。
- ② 原料、中間品、製品の安全性を確認し、従業員、物流関係者、顧客、一般消費者など関係する人々の健康障害を防止する。
- ③ 顧客が満足かつ安心して使用できる品質の製品とサービスを提供する。
- ④ 製品の開発から廃棄に至るあらゆる過程において、環境負荷の評価と低減を行い、環境保護に努める。

全部門、全従業員は、この方針の重要性を認識し、コンプライアンスを基本に個々の課題に自主的、積極的かつ迅速に対応するほか、継続的改善に努めること。

(改訂：2009年3月)

暮らしの中の住友精化

当社は、様々な分野で、安全・環境・品質に配慮しながら、日常生活を便利に、快適にする製品の開発を進めています。

吸水性樹脂

高吸水性樹脂「アクアキープ」は、水を吸収し保持する機能を持ち、紙おむつなどの衛生材料や、各種工業用製品などに使われ、ユーザーから高い評価を得ています。

機能化学品

水溶性ポリマー、吸水性ポリマー、エマルジョン、ラテックス、粉末樹脂など、幅広い製品を提供しています。これらの製品は、シャンプー、洗剤、化粧品、ポリマーコーティング、特殊な接着剤、ゴム製品など、身近で幅広い分野において利用されています。

- 水溶性ポリマー ● 吸水性ポリマー ● エマルジョン
- ラテックス ● 粉末樹脂

精密化学品

得意とする有機硫黄化合物の合成技術を利用して、医薬中間体、電子材料向け各種製品などを取り扱っています。生産設備も、パイロットスケールから大量生産までフレキシブルに対応できる各種汎用設備を保有し、確立された品質管理体制でユーザーのニーズにお応えします。

- 医薬品関連製品 ● 各種添加剤 ● 工業薬品 ● 機能性材料

ガス

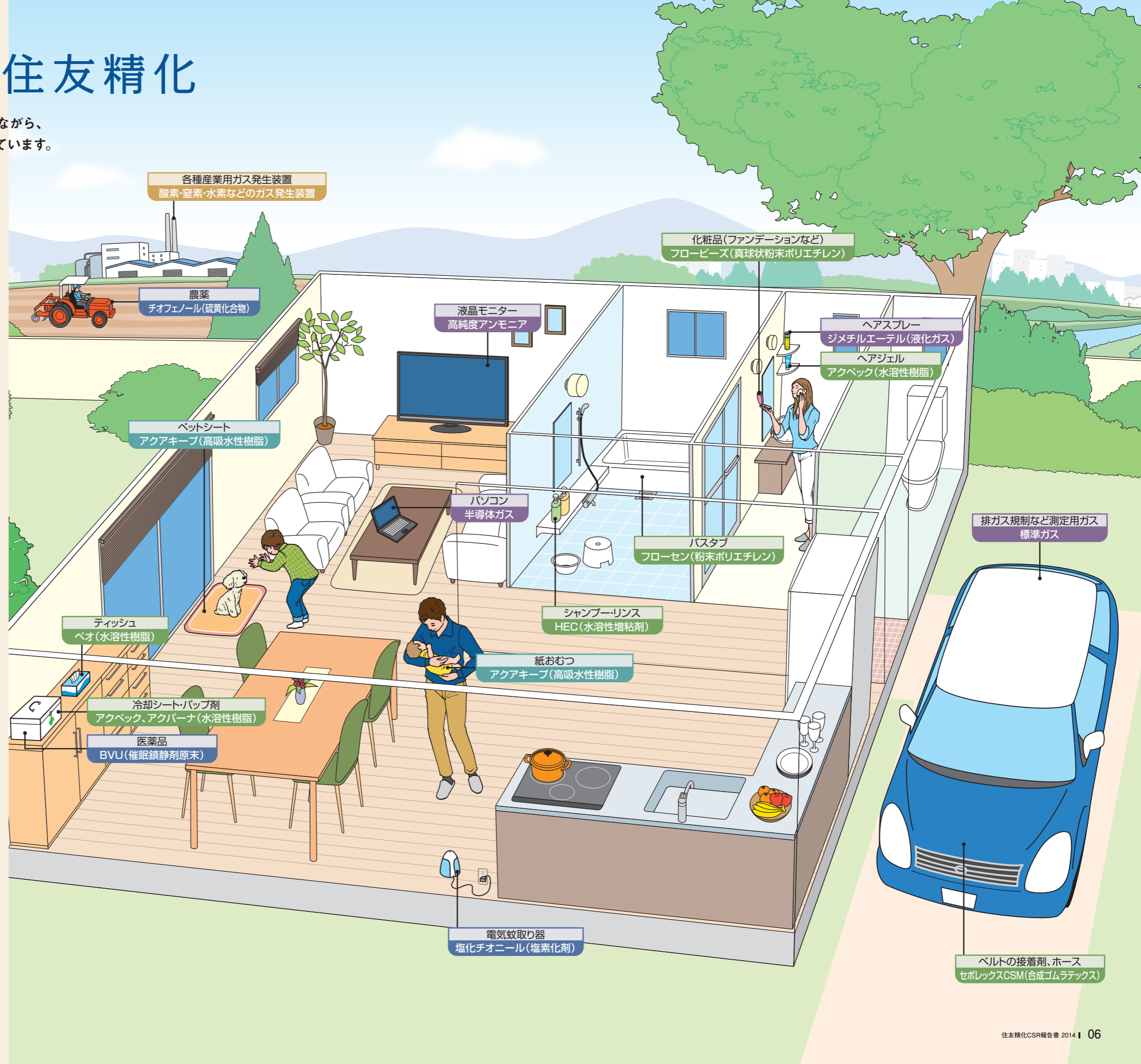
高度な合成・精製技術と分析技術を生かし、半導体用ガス、基幹材料として利用される工業用ガス、環境測定や分析機器の校正用などに使われる標準ガスなど、あらゆるユーザーニーズに応えるコスト競争力に優れたガスを供給します。

- 半導体用ガス ● 混合ガス ● 標準ガス
- 精密工業用ガス ● 医療用ガス ● 生活関連ガス

エンジニアリング

高性能吸着剤を用いたPSA方式（プレッシャースイング吸着方式）によるガス精製分離技術を利用した省エネルギー型ガス発生装置は、その省エネメリットと信頼性から世界で広くご利用いただいています。

- 酸素・窒素・水素などのガス発生装置（PSA方式） ● 一般化工機



CSR ダイジェスト

当社の2013年度のCSR活動について、
主だったものを要約してご紹介します。

揮発性有機化合物
(VOC) 排出量



休業災害“ゼロ”
(海外事業場にて休業災害“1件”)



安全のために…



休業災害

ヒヤリハットやKY活動の推進、指差呼称の徹底、3S
および見える化の推進の結果、2013年度の安全成績
は、国内では休業災害ゼロを達成しましたが、海外事業
場において休業災害が1件発生しています。また、アンモ
ニアが漏洩する事故が1件発生しています。

交通安全への取り組みについて、全日本交通安全協会
より表彰されました。

製造エネルギー原単位



環境のために…

当社は、地球温暖化・省エネルギー対策、揮発性有機化合物(VOC)の排出量削減、廃棄物の削減、環境汚染の防止(大気・水質・
土壌)などの活動を行っています。

2013年度は、製造エネルギー原単位について対前年度比8%減、また揮発性有機化合物(VOC)におきましても対前年度比
12%減となりました。

なお、騒音に関する苦情が1件ありました。

社会のために…

地域との良好な関係の構築・維持をはかるため、様々な地域の皆様とのコミュニケーション活動に取り組んでいます。
主な活動は以下のとおりです。

- ・子ども向け環境教育(兵庫県播磨町/おもしろ教室)
- ・地域環境イベント(兵庫県/ひめじ環境フェスティバル)への協賛
- ・就業体験(兵庫県/トライやるウィーク、インターンシップ)の受け入れ
- ・地域の清掃・美化活動
- ・地域の方との交流

2013年度の業績

経営成績

当期のわが国経済は、政府と日銀による財政・金融政策によってもたらされた円高の修正や株価の上昇などを通じて、企業業績や個人消費に持ち直しの傾向が見られましたが、海外では欧米先進国経済が一定の回復傾向を示した一方で、新興国における成長率の鈍化傾向が顕在化していることなどにより、景気回復の足取りには不確かさが残る状況が続きました。

このような状況のもとで、当期の当社グループの売上高は949億1千1百万円(前期比34.5%増)、営業利益は80億5千6百万円(前期比92.6%増)、経常利益は88億1千5百万円(前期比87.9%増)、当期純利益は56億5千6百万円(前期比81.2%増)と、前期比増収増益となりました。

なお、平成26年3月期より、当社グループの業績をより適切に管理・開示するために、一部の海外連結子会社の会計年度の終了日を12月31日から連結会計年度と同じ3月31日に変更したことに伴い、当期には、当該子会社の平成25年1月1日から平成26年3月31日までの15カ月間の実績を連結しました。

事業別の業績は次のとおりであります。

【化学品事業】

当事業では、売上高は191億8千5百万円(前期比12.7%増)、営業損益は前期比で2億1千6百万円改善し、8千3百万円の損失となりました。これは、精密化学製品の販売は減少しましたが、水溶性ポリマー製品および微粒子ポリマー製品の販売が増加したことなどによるものです。

【吸水性樹脂事業】

当事業では、売上高は632億9千3百万円(前期比54.2%増)、営業利益は74億1千万円(前期比103.3%増)となりました。なお、決算期を変更した海外連結子会社の平成25年1月から3月までの実績を除きますと、売上高は584億7千6百万円(前期比42.4%増)、営業利益は68億3千9百万円(前期比87.6%増)であります。これは、平成25年1月に稼働を開始した姫路工場の増強設備が通期で寄与したことと、前期と比較して為替レートが円安方向に推移したことなどによるものです。

【ガス・エンジニアリング事業】

当事業では、売上高は124億3千3百万円(前期比0.7%減)、営業利益は7億1千8百万円(前期比16.4%減)となりました。これは、国内需要の低迷によるガス発生装置の販売減少に加え、エレクトロニクスガスの価格競争が激化したことなどによるものです。

中期経営計画「SEIKA PLAN 2015」について

当社グループは2010年4月に6カ年の中期経営計画SEIKA PLAN 2015をスタートし、事業規模の拡大と安定的な収益基盤の構築を基本方針に、2015年度の売上を1,000億円とする目標に取り組んでまいりました。2013年度に、この目標に向けた道程として後半3カ年(2013年から2015年まで)の業績目標を設定しています。

「SEIKA PLAN 2015」

グローバルに展開する
スペシャリティーケミカルカンパニーを目指して
— 事業規模の拡大と安定的な収益基盤の構築 —

■経営方針

当社グループは、社会との共存共栄を基本方針とし、化学の分野で世界に通じる独創的な技術を開発し、特色のある質の高い製品を国内外へ供給することにより、社会に貢献する。

■当社グループが目指す企業像

- 成長分野に、特色のある新製品を上市し続ける研究開発型ケミカルカンパニー
- 世界に通じる技術で、グローバルニッチに事業を展開する高収益企業
- 社会的責任を果たし、社員が誇りと生きがいを感じる会社

01 中期経営計画-SEIKA PLAN 2015-2010年から2012年の実績

	2010年度 実績	2011年度 実績	2012年度 実績	(参考) 2012年度 当初計画
売上高 (億円)	647	682	706	770
営業利益 (億円)	58	43	42	55

02 中期経営計画-SEIKA PLAN 2015-2013年から2015年の行動計画

■基本戦略

高機能品の拡充による収益力の強化と吸水性樹脂の事業規模拡大

■行動計画

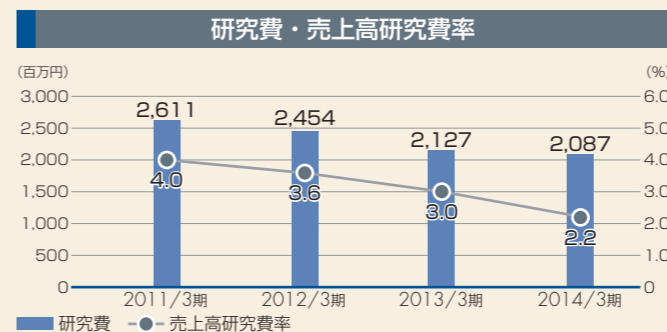
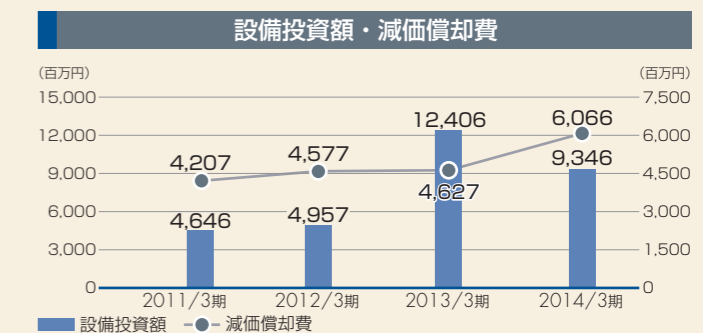
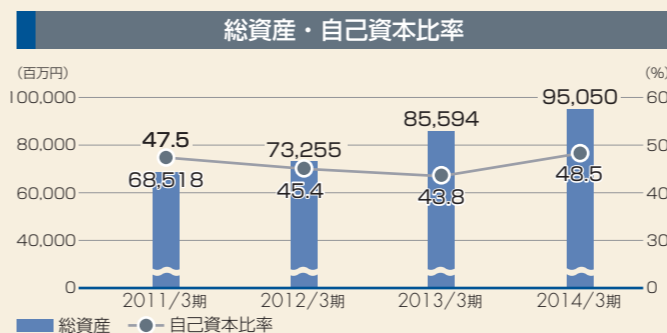
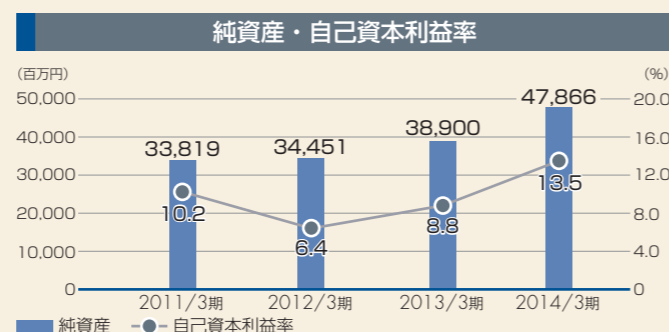
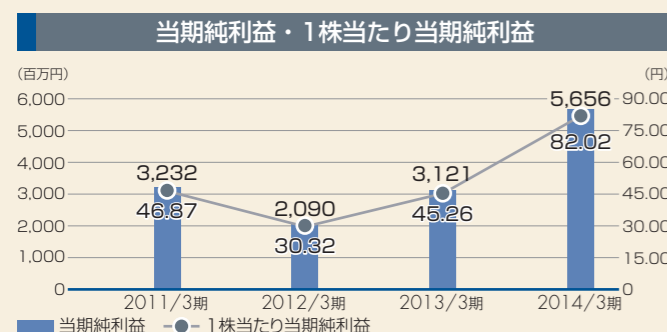
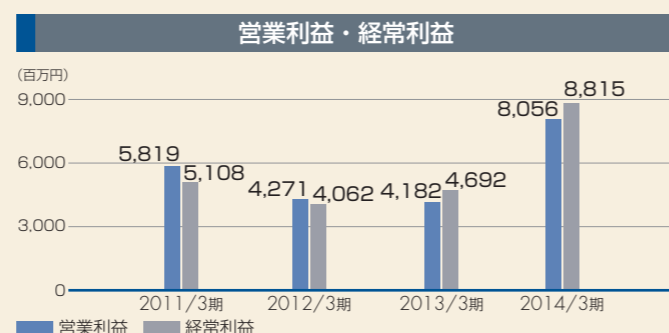
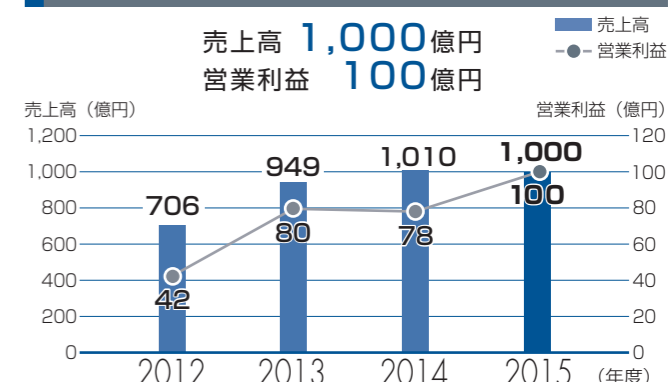
当初計画どおり、2015年度に売上高1,000億円、営業利益100億円の目標を実現する方針を堅持

■成長の源泉

- 高吸水性樹脂 30万トン体制の完遂と次期増設の具体化
- 高機能製品の開発、収益力の強化(環境・エネルギー、生活・アメニティ、情報・電子材料などの成長分野)
- 生産技術の向上・革新を通じたコスト低減
- 人材育成と活力ある企業風土の醸成

■業績目標

最終年度目標



会社概要

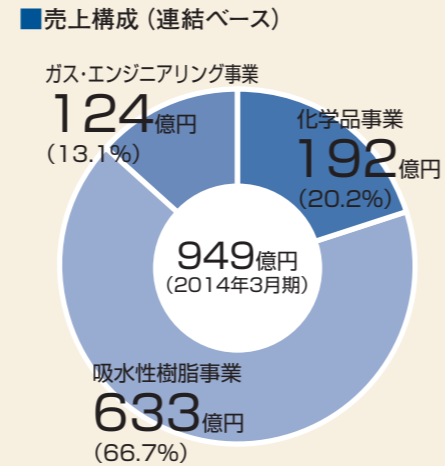
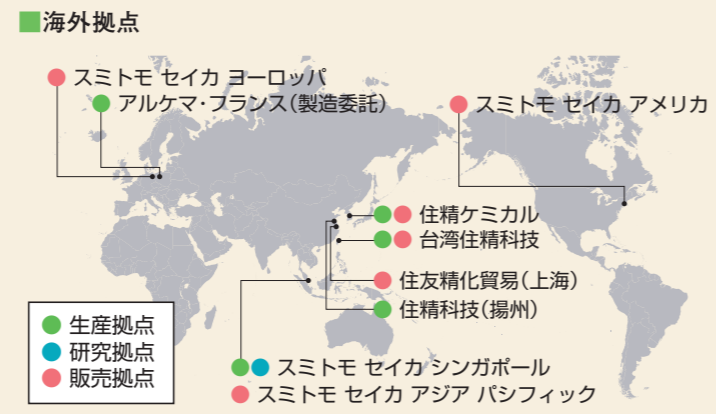
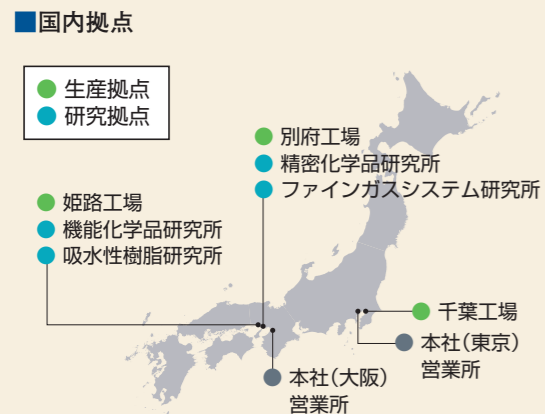
会社概要	
設立	1944年(昭和19年)7月20日
資本金	9,698百万円
従業員数	1,117名(連結ベース・2014年3月末現在)

事業区分	主要製品
化学品事業	精密化学品(工業薬品、医薬製品、機能製品など)、機能化学品(水溶性ポリマー、微粒子ポリマーなど)
吸水性樹脂事業	高吸水性樹脂
ガス・エンジニアリング事業	医療用ガス、ケミカルガス、標準ガス、エレクトロニクスガス、酸素・窒素・水素などのガス発生装置(PSA方式)、一般化工機など

国内拠点			
本社	大阪、東京	工場	別府工場(兵庫)、姫路工場、千葉工場
営業所	大阪、東京	研究所	精密化学品研究所(兵庫)、吸水性樹脂研究所(兵庫)、機能化学品研究所(兵庫)、ファインガスシステム研究所(兵庫)

子会社		
	会社名	主要な事業内容
国内	セイカテクノサービス株式会社	各種サービス業務
	セイカエンジニアリング株式会社	各種化学装置の製作
海外	スミトモ セイカ シンガポール プライベート リミテッド	高吸水性樹脂の製造
	スミトモ セイカ アジア パシフィック プライベート リミテッド(シンガポール)	高吸水性樹脂・化学品等の販売
	台湾住精科技(股)有限公司	エレクトロニクスガスの製造・販売
	住精ケミカル株式会社(韓国)	エレクトロニクスガスの製造・販売
	住友精化貿易(上海)有限公司	高吸水性樹脂・ガス製品等の販売
	住精科技(揚州)有限公司	エレクトロニクスガスの製造
	スミトモ セイカ ヨーロッパ S.A./N.V.(ベルギー)	高吸水性樹脂・化学品等の販売
	スミトモ セイカ アメリカ インコーポレーテッド	高吸水性樹脂・化学品等の販売

※上記のほか、韓国において高吸水性樹脂の製造の新会社(スミトモ セイカ ポリマーズ コリア カンパニー リミテッド)を設立



住友精化のCSRマネジメント

当社は、社会から信頼される企業であるために、住友精化グループ行動憲章に基づき、社会からの期待や要望に応えるべく事業を行っています。これからも、企業倫理の維持・向上を図りながら、社会に貢献してまいります。

コーポレート・ガバナンス

コーポレート・ガバナンスに関する基本的な考え方

当社グループでは、ステークホルダーの負託に応えて、強固な事業基盤を築き、社会の発展に貢献することを基本としています。コーポレート・ガバナンスに関しては、ステークホルダーの揺るがぬ信頼を得るため、効率的かつ公正な経営を執行し、その経過および結果を迅速・適確に開示することとしています。

コーポレート・ガバナンス体制

当社は、会社基本方針の策定および戦略の決定、ならびに業務執行の監督機能を有する取締役と、業務執行に専念する執行役員を分離することで、コーポレート・ガバナンス体制を強化しております。併せて効率的な経営の実現と競争力の強化を図るため、執行役員制度を採用するとともに、経営環境の変化に迅速に対応できる経営体制の構築を図るため、取締役の任期は1年としています。執行役員は、取締役会が決定した経営戦略に基づき、その委ねられた業務領域における業務執行を行います。

当社グループの経営上の重要事項や取締役会に付議・報告される事項については、常勤の取締役が出席する経営会議において審議しています。

監査役会は、各担当取締役と定期的な情報交換を行い、適法性および妥当性の両面から適正な監査を行っています。

当社では、内部統制システムを整備するため、内部統制委

員会(委員長:社長)を設置し、リスク・コンプライアンス委員会(リスクマネジメント、法令遵守(コンプライアンス)を所管)、およびRC(レスポンシブル・ケア)委員会(安全・環境・品質を所管)を統括しています。当社では、経営の課題に適切に対応できる体制を構築することで、効率的かつ公正な事業活動の実施に努めています。

内部統制

当社では、取締役会において「内部統制システム整備の基本方針」を決議し、取締役の職務執行が法令および定款に適合することを確保するための体制、業務の適正を確保するために必要な体制、監査役の監査が実効的に行われることを確保するための体制の整備を社内外に宣言しています。

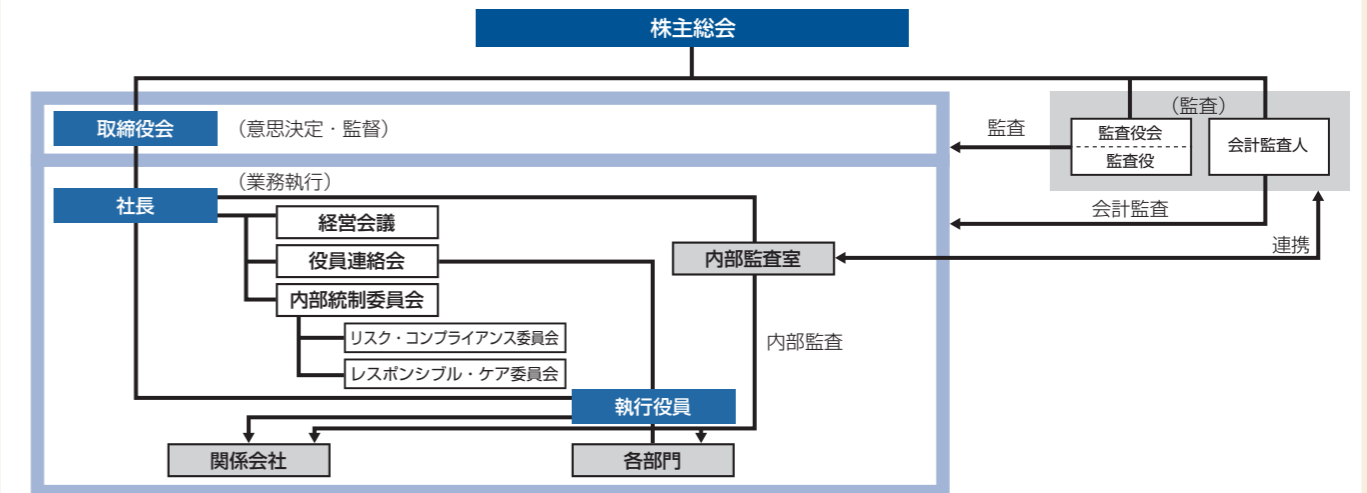
内部監査

当社グループの業務執行を監査するため、内部監査室による監査を行っています。監査は、コンプライアンス違反を未然に防止するとともに、業務効率の向上を図ることを目的として実施しています。

適時開示

投資判断に必要な情報を適時、公正公平にかつ継続して提供し、IR・広報活動の強化・推進に努めています。IR・広報活動については、社内専任部署(経理企画室)を設置して、タイムリーで適切な情報開示や社会との対話を図っています。

■コーポレート・ガバナンス体制図



方針・推進体制

当社は、自主的に「環境・安全・健康」を確保し、社会との対話を行うレスポンシブル・ケア活動に取り組んでいます。

コンプライアンス

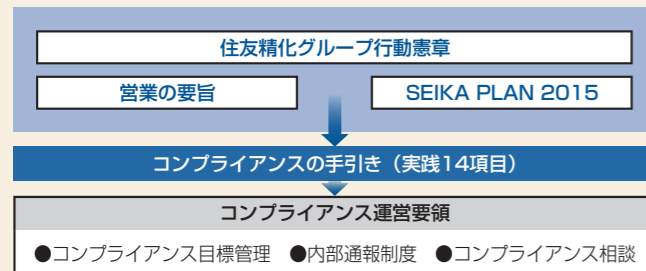
当社グループでは、「住友精化グループ行動憲章」を策定し、その周知徹底を図っています。

「住友精化グループ行動憲章」

- 1.住友の事業精神を尊重し、社会との共存共栄をはかります。
- 2.化学の分野で世界に通じる独創的な技術を開発し、特色のある質の高い製品を国内外へ供給することにより、社会に貢献します。
- 3.国内外の法令、社内規則ならびに社会の規範や倫理を遵守し、社会的良識をもって行動します。

この行動憲章に則り、具体的行動指針を定めています。

■住友精化グループコンプライアンス体系図



コンプライアンスの実効性確保に向けた取り組み

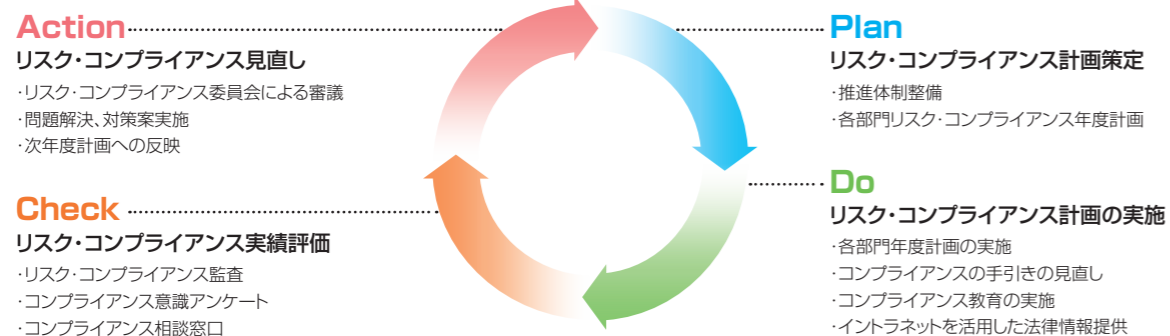
●コンプライアンス目標管理

当社では、リスク・コンプライアンス委員会が全社年度目標を定め、部門ごとの目標に展開することでコンプライアンスを実践しています。

●内部通報制度

コンプライアンス違反を未然に防止するために、社内および社外機関で内部通報を受け付ける体制としています。

■リスク・コンプライアンスのマネジメントサイクル



●コンプライアンス相談

コンプライアンスにかかる相談窓口を明らかにして、社員からの疑問に答えることにしています。

●コンプライアンス教育

新入社員、リーダー・主任層や新任管理職などの階層別集合研修やテーマに応じた職場教育を行うなど、様々な啓発・教育の機会を設け、コンプライアンスの実効性を確保しています。

リスク管理

当社グループでは、リスク管理体制を整備、推進しています。

危機管理体制

●未然防止

リスク・コンプライアンス委員会およびRC委員会において、様々なリスクが当社グループに及ぼす影響を評価し、優先度、重要性を勘案して、毎年度の目標を設定しています。また、リスク管理の見直しを行い、次年度の活動に活かしています。

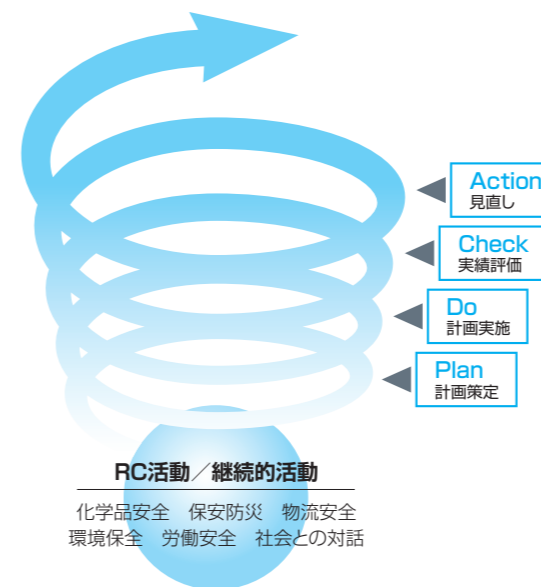
●緊急時の対応

人命・身体に危険が及ぶおそれのある事件・事故、企業の信用や資産に重大な影響が及ぶおそれのある事態、自然災害などの緊急事態に対し、当社経営に対する影響を最小化するとともに、緊急事態による被害拡大の防止と緊急事態の速やかな收拾および再発防止の徹底を図るため、事故対策本部を設置することにしており、その設置をルール化しています。

レスポンシブル・ケア（RC）とは

化学系の企業の多くにおいて、化学物質の開発から製造・物流・使用・最終消費を経て廃棄・リサイクルに至る全過程において、自主的に「環境・安全・健康」を確保しており、その活動の経過を公表し、社会との対話・コミュニケーションを行っています。この活動を「レスポンシブル・ケア」と呼んでいます。

■レスポンシブル・ケア活動のスパイラルアップ



住友精化のレスポンシブル・ケア

当社は、1995年からレスポンシブル・ケア活動に参加し、社会の一員として法令遵守はもとより、自主的に環境保全や労働安全、保安防災に取り組んでいます。

企業に求められる課題は年々多岐化・高度化してきていますので、各種マネジメントシステムを活用して取り組み、これらの活動成果を公表し、社会と対話・コミュニケーションを行うことで、一層信頼される企業づくりを進めています。

方針

当社は、「安全をすべてに優先させる」ことを基本に、「無事故・無災害」、「顧客重視」、「社会との共存共栄」を基本理念として「安全、環境、品質に関する経営基本方針」を定めています。中でも安全、環境に関わるレスポンシブル・ケア活動は、私達化学企業にとって、持続的な発展を続け、社会の信頼を得るために、極めて重要な課題ですので、「レスポンシブル・ケア活動を推進する」ことを表明しています。

推進体制

環境保全や労働安全、保安防災などに対応するにあたっては、時に大きな投資判断を求められることから、当社は、施策の推進に対する確かな経営判断を下すために内部統制委員会の下にRC委員会を設置しています。また、これらの委員会にて、毎年、「方針・計画の審議・決定」、「plan-do-check-actionが実行できているかどうかの確認」を行っています。

RC監査

当社は、PDCAを継続して回し、スパイラルアップを図るためにRC監査を行っており、毎年国内3工場および海外4事業所の監査を実施しています。この監査において年度のRC活動計画の実施状況をRC監査にてチェックし、その結果を内部統制委員会およびRC委員会において報告することで、マネジメントレビューに生かしています。

活動と実績

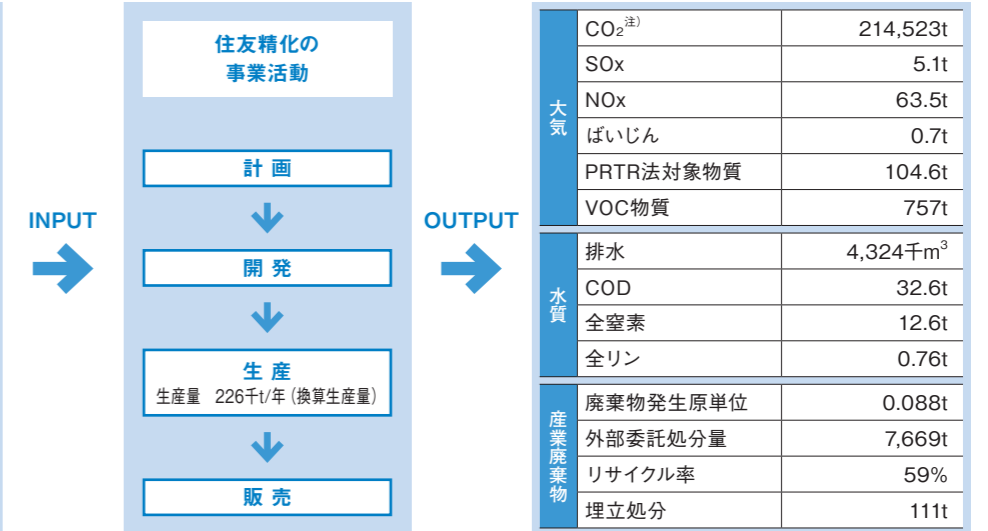
「レスポンシブル・ケア活動の取組課題と実績」、事業活動を遂行した結果の「環境負荷」、環境負荷を軽減するために投じた費用をまとめた「環境会計」と得られた「経済効果」について報告します。

項目	2013年度目標	2013年度の取組み		評価
		実施項目	目標達成状況	
法遵守 (コンプライアンス)	法違反“ゼロ”	(1) 順守評価システムの適確な運用と法令遵守の徹底	法違反:0件	◎
労働安全	休業災害、不労災害および交通事故(加害) “ゼロ”	(1) 予防措置の徹底 (2) 非定常作業における安全管理の徹底	休業災害:0件、不労災害:1件 交通事故(加害):15件	△
衛生	私傷病休業者の削減および快適な職場づくりの推進	(1) 心と身体の健康と快適な職場づくりの推進	時間外労働時間の削減や有給休暇取得率の向上、メンタルケアの強化などに取り組みました。	○
保安・防災	重大トラブル“ゼロ”	(1) 既存設備のプロセス危険性評価の徹底 (2) 地震・津波対策の推進	重大トラブル:1件 アンモニアが漏洩するトラブルがありました。 軽微なトラブル:28件	△
化学品安全	化学品の適正管理の推進	(1) 海外化学品規制への適切な対応 (2) 国際的な化学品の自主管理活動(JIPS)への参画	EU REACH規則およびCLP規制など、着実に対応中です。	◎
物流安全	重大物流事故“ゼロ”	(1) 物流協力会社への安全輸送対策の支援 (2) 輸送途上事故想定訓練3社/年以上 (3) タンクローリー、タンクコンテナ荷役時の保安協定書の締結支援	重大物流事故:0件 保安教育:15回 事故想定訓練:2回	◎
地球温暖化・省エネルギー	省エネルギーによる環境保全の推進 (1) 製造に関わるエネルギー原単位対前年度比1%削減 (2) 製品輸送におけるエネルギー原単位対前年度比1%削減	(1) 高エネルギー原単位プロセスの計画的改善 (2) 新規・増強プロセスにおけるエネルギー原単位のミニマム化の推進 (3) モーダルシフトおよび輸送効率化の推進	製造エネルギー原単位:0.365 対前年度比8%削減 輸送エネルギー原単位:5.96 対前年度比24.6%削減	◎
廃棄物	廃棄物削減の推進 (1) 廃棄物発生原単位:0.138t/t維持(2010年度実績) (2) 外部委託量:7,300t/年以下(2010年度実績) (3) リサイクル率:60% (4) 最終埋立処分:140t/年以下(2010年度実績)	(1) 新規・増強プロセスにおける廃棄物排出量のミニマム化の推進	廃棄物発生原単位:0.088t/t 外部委託量:7,669t/年 リサイクル率:59% 最終埋立処分:111t/年	○
PRTR および 揮発性有機化合物	1. PRTR特定化学物質 環境省優先取組物質の削減 (1) 1,3-ブタジエン:1t/年 (2) 1,2-ジクロロエタン:5t/年 (3) トリクロロエチレン:3t/年 2. 揮発性有機化合物(VOC) 排出量の対2000年度比30%削減	1. PRTR 特定化学物質 (1) 新規・増強プロセスにおける排出量のミニマム化の推進 2. 揮発性有機化合物(VOC) (1) 削減計画の実施	1. PRTR (1) 1,3-ブタジエン:0.3t/年 (2) 1,2-ジクロロエタン:8.8t/年 (3) トリクロロエチレン:5.7t/年 2. VOC 対2000年度比30%削減に向け、対前年度12%削減しました。	△
環境汚染 (大気・水質・土壌)	重大環境トラブル“ゼロ”	(1) 排水監視システムの適切な運用および異常時の適切な対応	重大環境トラブル:0件 騒音に関する苦情:1件	○
品質	1. 重大クレーム“ゼロ” 2. 苦情・クレーム・工程内不適合の削減(自社起因:2012年度比20%削減)	(1) 国内品質保証体制およびシステムの強化 (2) 国内品質管理体制およびシステムの強化	重大クレーム:0件 自社起因の苦情・クレームおよび工程内不適合:75件 若手社員のヒューマンエラーが増加傾向にあり2012年度比20%削減は達成できませんでした。	△
グローバル化への対応	グローバル化に向けた安全・環境管理および品質保証体制の強化	1. 安全・環境 (1) 災害事例報告・トラブル報告の徹底と水平展開 (2) 海外事業所への行政動向に対応した支援 (3) 海外事業所への安全管理支援とRC監査による確認 2. 品質 (1) 住友精化グループの品質保証体制の強化と品質保証システムの運用支援	1. 安全・環境 海外事業所 休業災害:1件 不労災害:1件 災害速報、トラブル報告を配信し、同様の災害等がないように水平展開を図りました。 2. 品質 海外事業所の品質保証体制を強化するため、品質監査を実施すると共に、品質トラブルおよび製品の試験検査結果などの情報の共有化を推進しました。	△
情報公開と社会貢献	ステークホルダーへのRC情報の提供によるコミュニケーション、および地域貢献の促進	(1) 各地区における地域とのコミュニケーションおよび地域貢献の推進	近隣自治会を招いて、防災訓練を行うなど、定期的に情報交換交流を実施しました。	◎

◎:目標達成 ○:目標ほぼ達成 △:目標未達成

環境負荷 (2013年度実績)

エネルギー使用量 (原油換算)	82,607kℓ
水使用量 (冷却水の海水除く)	5,290千m ³
原材料使用量	250千t および 2,057千Nm ³ (ガス)



注) CO₂のみ、本社を含んでいます。

単位:百万円

環境会計

当社では、環境保全に要した費用と経済効果を定量的に把握・評価し、より効率的な環境対策を講じるためのツールとして環境会計を導入しています。

なお、この集計にあたっては、環境省ならびに日本化学工業協会の「環境会計ガイドライン」を参考に算出しています。

事業エリア内コスト	環境保全コストの分類	主な取組み内容	2012年度集計		2013年度集計	
			投資額	費用額	投資額	費用額
公害防止コスト	大気汚染防止	化学物質排出抑制対策	85	162	52	166
	水質汚濁防止	排水管理強化 排水処理設備の維持・管理	64	276	59	295
	その他	騒音防止対策、悪臭防止対策	1	1	3	3
地球環境保全コスト (温暖化・省エネ)	地球温暖化	地球温暖化および省エネルギー	730	1,429	91	2,486
	資源循環コスト	廃棄物の処分・リサイクル	0	347	0	335
上・下流コスト	容器包装などの低環境負荷化		4	1	0	1
管理活動コスト	環境負荷監視 環境保全システム運営管理		21	149	11	156
研究開発コスト	ガス回収装置の研究開発 環境負荷低減研究		78	296	66	343
社会活動コスト	自然保護・緑化・美化・景観保持など		0	1	0	1
環境損傷コスト	環境損傷修復費用		0	0	0	0
総計			983	2,662	282	3,786

2012年度の対象期間:2012.4.1~2013.3.31
2013年度の対象期間:2013.4.1~2014.3.31
範囲:国内拠点
算出方法:投資額、ランニングコスト等の費用額は実行費用から環境保全に関わる割合を案分して算出しています。

2013年度集計		金額
種類	内容	
費用削減	活性汚泥設備の増強による産廃処理費の低減	798
	高効率乾燥機の導入による蒸気使用量削減	336
	揮発性有機化合物(VOC)の排出削減による溶剤購入費削減	288
	C G Sの導入による購入電力削減、蒸気発生効率向上	102
	復水回収によるLNG使用量削減	51
	HR設備増産、高効率設備導入による溶剤、蒸気、電力削減	24
	その他	8
計		1,607

対象期間:2013.4.1~2014.3.31
範囲:国内拠点

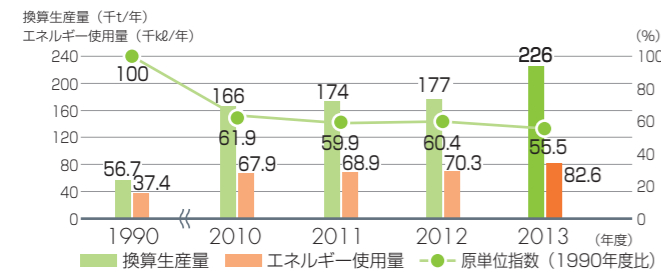
環境保全

当社は、豊かな自然環境づくりに向け、事業運営に伴う環境負荷を低減する努力を続けています。

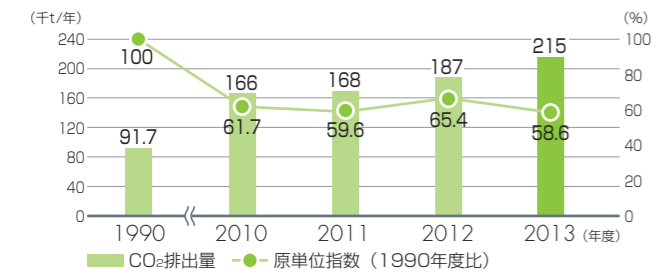
省エネ・地球温暖化

単位当たりの生産量に対するエネルギー使用量やCO₂排出量を「原単位」として把握管理し、低減に努めています。

省エネルギー状況



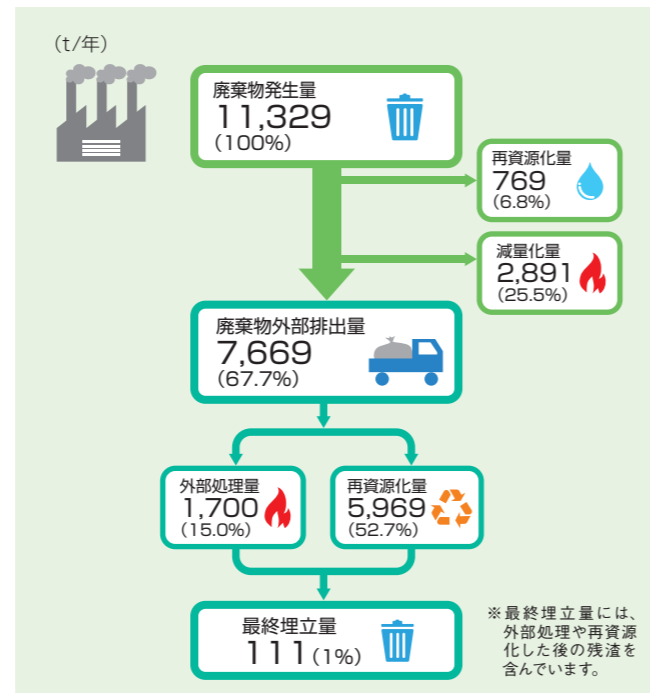
CO₂排出量の推移



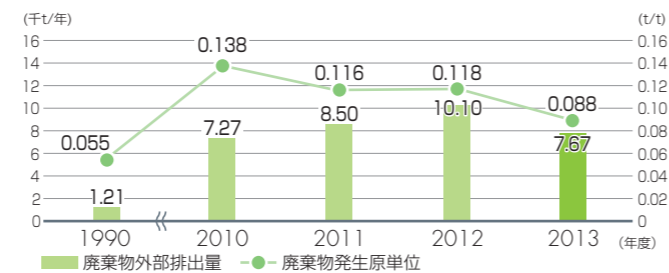
廃棄物削減

廃棄物の排出にあたり、分別、 manifests の管理、産業廃棄物処理委託業者への適切な処理依頼など、廃棄物処理法を確実に遵守しています。

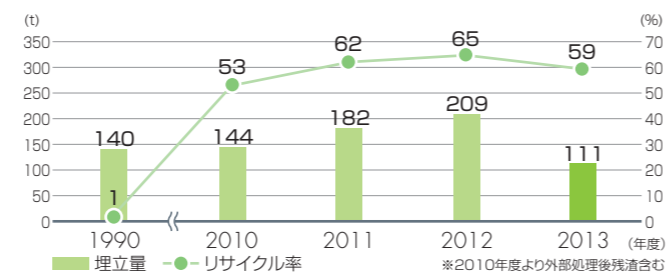
廃棄物の処分



廃棄物発生原単位推移



最終埋立量とリサイクル率推移

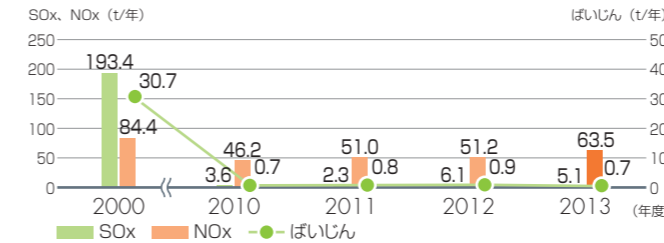


大気汚染防止・騒音

大気汚染物質、化学物質排出把握管理促進法 (PRTR) 対象物質、VOC 物質の適正管理や排出量の低減に努めています。

なお、騒音については、国内で製造起因の苦情が1件発生しています。

SOx、NOx、ばいじんの排出量推移



PRTR法対象物質排出量推移

物質	1995	2010	2011	2012	2013
1,3-ブタジエン	2.8	9.0	4.7	1.6	0.3
1,2-ジクロロエタン	72.0	6.1	7.1	5.5	8.8
トリクロロエチレン	70.0	5.4	4.3	5.3	5.7
ヘキサン	-	102.4	116.4	109.5	81.0
ジクロロメタン	69.6	1.9	1.1	1.2	1.0
その他	21.6	10.9	10.5	9.5	7.8
総量	236.0	135.7	144.1	132.6	104.6

※2010年度よりヘキサン含む

VOC物質排出量推移

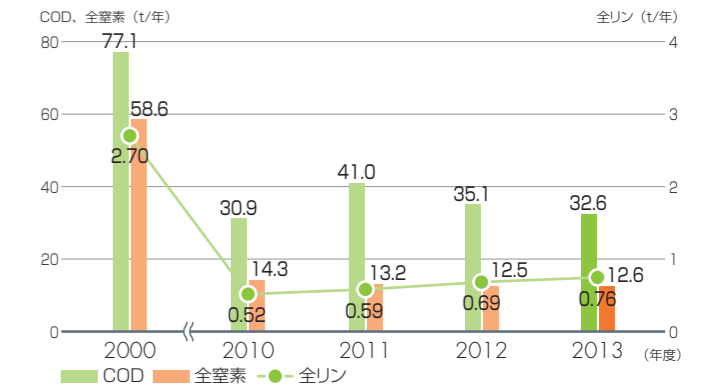
物質	2000	2010	2011	2012	2013
ヘプタン	292	634	582	486	481
ペンタン	2	120	130	199	131
メチルアルコール	21	25	10	20	22
メチルイソブチルケトン	20	20	24	22	13
その他	171	139	148	136	110
総量	506	938	894	862	757

単位：排出量 (t/年)

水質保全

水質汚濁物質の適正管理や排出量の低減に努めています。

水質汚濁負荷量の推移



現場インタビュー



姫路工場 第2製造課
福永 守弘

姫路工場では、製造工程で多くの揮発性有機溶媒 (VOC) を使用しています。これまで、計画的にVOC回収・燃焼装置の導入を進め、環境負荷の低減に努めてきました。

しかし、効果を発揮する一方で、設備増強による生産量の増加に伴い化学物質取り扱い量は増加傾向であり、更なる取り組みが必要となりました。

そこで2013年度、新たに導入したVOC回収装置では、製品由来の水分影響による品質低下を考慮した分離回収システムを構築し、環境・品質を効率的に改善することに成功しました。

今後も、トータルバランスを意識した環境保全を推進していきます。

労働安全衛生・保安防災

「安全をすべてに優先させる」を経営の基本理念とし、一線で働く社員が、安全で安心して働くことができる職場づくりを目標に取り組みを進めています。

労働災害ゼロへの取り組み

当社の労働災害（休業災害）は、2005年に1件発生した以降、国内拠点において、無災害を継続しています。しかし、災害は、いまだ根絶できず、休業に至らない災害は毎年数件の発生があります。2013年度は、海外事業所においては、アンモニアの受け入れ作業においてアンモニアが体に付着し薬傷を負うという休業災害が1件発生しました。

同じ災害・事故を起こさないよう、災害・事故情報を国内外ともに共有化し、労働災害ゼロを目指します。

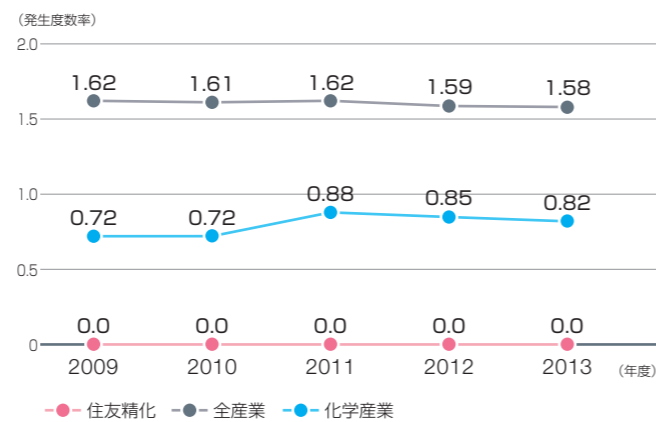
交通事故防止への取り組み

当社は、交通災害の防止にも取り組んでおり、その取り組みが評価され、別府工場が一般社団法人全日本交通安全協会より表彰を受けました。

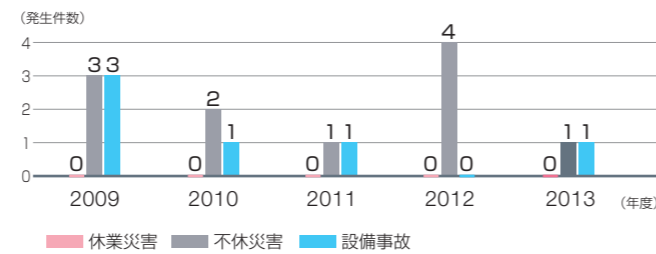
今後も、従業員の意識を高める活動を行い、交通災害の防止に取り組んでいきます。



労働災害度率



労働災害および設備事故の発生件数推移表



保安防災の取り組み

国内拠点にて、配管の外蝕によりアンモニアが漏洩する設備事故が1件発生しました。新たに「点検基準」を制定し、再発防止を図っています。

有事に備えた防災訓練

各工場において手順書・要領書の見直し、設備の定期点検・日常点検の実施、リスクアセスメントや危険予知訓練（KYT）などを実施し、不安全箇所、不安全行動などの改善を行うことで、事故の防止に努めています。

また、定期的に地震・火災・漏洩などの災害事故を想定した実地訓練を、近隣他社や地域の消防と協力して実施しています。

地震対策

1995年の阪神大震災および2011年の東日本大震災という2つの大地震を鑑みて、震災時に被害を拡大させないための備えを行っています。

2013年度は、人が常駐する「昭和56年以前の建物の耐震評価」より、耐震不足の建物について、計画的に耐震補強を実施しております。



消火訓練



防災訓練

現場インタビュー



ファインガスシステム研究所
ユウ ヨネ

別府工場では各職場の代表からなる交通安全推進委員が中心となり、地域の交通マナーをリードしていく意気込みを持ち、交通事故防止に全員で取り組んでいます。

様々な啓発活動に加えて、「駐車場でのバック駐車」「通勤に生活道路を利用しない」「かもしれない運転」などを常識として共有、実行する一方で、起きてしまった事故に対しては、事故事例として社内へ水平展開し再発防止に努めています。

これらの交通安全に対する活動が評価され、第54回交通安全国民運動中央大会にて「交通安全優良事業所」として表彰を受けました。

今後も交通安全活動を地道に継続し、交通事故防止に努めていきたいと思っております。

品質保証

当社は、全社一体となった品質保証システムを構築し、お客様が満足し、かつ安心して使用できる品質の製品を提供することに努めています。

全社品質保証システム

当社では、安全、環境、品質に関する経営基本方針に従い「顧客が満足しかつ安心して使用できる品質の製品を提供する。」を基本に、全社一体となった品質保証システムを構築し、品質マネジメントシステムの国際規格であるISO9001の認証を『全社マネジメントシステム』として取得すると共に、品質保証システムの維持・改善に取り組んでいます。

ISO9001認証の歴史

1996年12月別府、姫路、千葉工場でISO9002認証取得
 1997年6月エンジニアリング部門(P S A)ISO9001認証取得
 2002年12月3工場および研究所・本社を含めた、全社システムとしてのISO9001認証取得
※お客様の品質保証は、会社が丸となって実施するという基本的な考えから、全社でISO9001を認証取得しました。

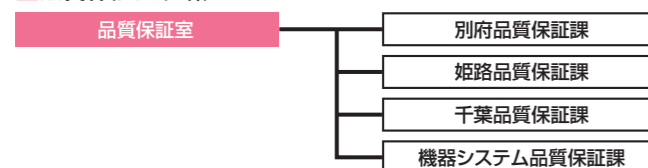
私達の製品は、一般工業用化学品から医薬・化粧品原料、電子・半導体原料まで多岐にわたります。同じ化合物でもお客様の用途が違えば、必然的に要求される内容も違ってきます。営業―研究所―工場が一つのマネジメントシステムのもとに全社的に機能することにより、顧客満足を第一義とした品質保証活動を展開しています。

また、業界ごとに違う要求内容に対し、より厳しい要求事項を参考にすることにより、品質保証の全体的な底上げ・改善を図っています。

品質保証室

全社品質保証活動の中心を担うのが品質保証室です。全社統括部門としての品質保証室があり、各工場に品質保証課を設置し、「顧客目線での品質保証」を基本に横断的な品質保証活動を展開しています。

品質保証室組織



品質保証活動

品質保証室(各品質保証課含む)では、「品質保証室連絡会」を毎月開催し、品質保証に関わる事項の方針を決定し、組織的に品質保証活動を進めるための調整や審議を行い、各地区への展開を図っています。

毎月の「品質月報検討会」においては、実際に発生した苦情および社内の品質トラブルに対する対応協議およびそれらの情報の共有化を行うと共に、この結果をまとめた「品質月報」を経営層や関係部門長および海外事業所にも報告することにより、再発防止や水平展開を図り、品質保証システムの強化に取り組んでいます。



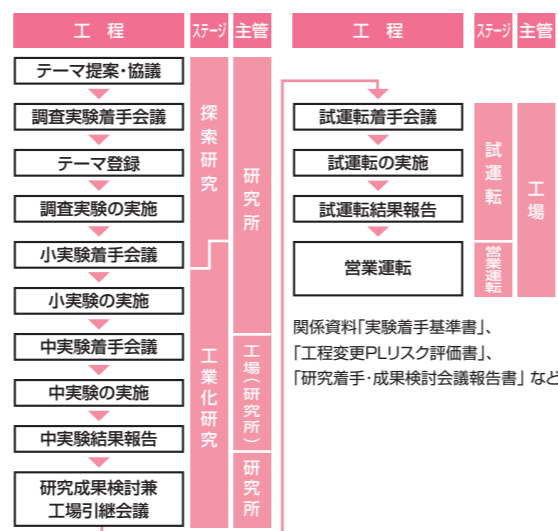
品質会議

各工場においても、「品質会議」を毎月開催し、工場長および製造課長に苦情や社内の品質トラブルなどの発生状況および対応状況を報告、審議すると共に、情報の共有化と審議結果の組織内徹底を図っています。

研究開発段階での品質保証

研究開発業務において、製品がお客様の要求事項および当社の研究開発・設計目標に確実に適合するよう、設計・開発の各段階に適した審査(着手会議)および妥当性確認(報告会)を実施しています。

研究開発業務フロー



監査・査察

品質保証システムの維持および改善のため、国内の各工場に対して品質保証室による「工場監査」「QCパトロール」を実施しています。

「工場監査」では、品質保証室のスタッフが監査員となり、製造課・製造品目単位で月毎にテーマを決めて実施しています。品質保証の観点から見た現場確認と製造管理・品質管理状況の確認を行うことで、現場と品質保証部門が一体となって改善の機会を見つけ出し、品質保証システムと顧客満足の向上につなげています。

また、品質会議前後に実施するQCパトロールでは、現場の整理・整頓・清掃・表示を中心に現地確認を行い、品質管理の基本である5Sの徹底を図っています。

同様に海外の生産拠点に対しても、RC室と合同で「RC監査および品質監査」として安全・環境・品質の監査を行うとともに、今まで日本で培ってきた安全・環境・品質に対する管理技術の伝承と指導を行っています。



QCパトロール

2013年度 品質監査実施状況

実施日	対象部門
2013年4月25日	姫路工場 第2製造課
2013年5月27日	別府品質保証課 品質管理G
2013年6月5日	千葉工場 プラスチック課
2013年6月19日～21日	スミトモ セイカ ヨーロッパ
2013年8月21日	姫路工場 第3製造課
2013年8月30日	別府工場 ファインガス課
2013年9月4日	千葉工場 ファインガス課
2013年10月1日～30日	全社一斉内部品質監査
2013年11月29日	姫路品質保証課 品質管理G
2013年12月12日	別府工場 精密化学品課
2014年1月22日～25日	台湾住精科技
2014年2月4日	千葉品質保証課 品質管理G
2014年2月5日～8日	スミトモ セイカ シンガポール
2014年3月26日～28日	住精科技(揚州)

品質保証教育

経営の最重要目的が継続的に顧客満足を向上させることであり、それを達成するためには品質保証システムの改善が重要であることを理解し、実際の業務改善に活かせるよう、品質保証室が中心となった継続的な「品質保証概念教育および品質管理教育」を実施しています。

- ①新入社員教育②新任監督者教育③新任役職社員教育④階層別技術教育

また、実際に発生した苦情や品質トラブル事例を基に教育資料を作成し、国内・国外での啓蒙活動および再発防止のためのQC教育を実施しています。

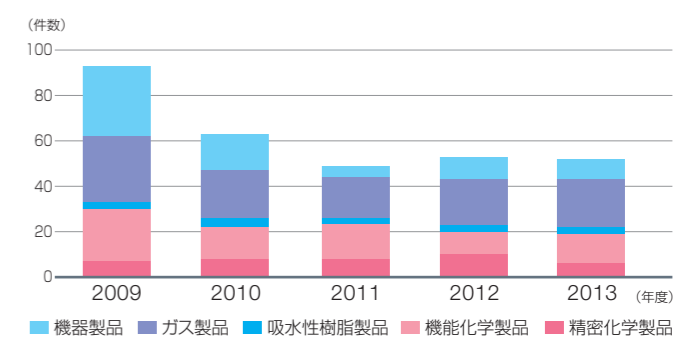


海外工場監査



海外工場でのQC教育

苦情・クレーム発生件数推移



製造工程の安全確保のみならず、物流工程における安全確保や、お客様に対して化学品を適切に取り扱っていただくための安全性データの提供などに積極的に取り組んでいます。

物流安全確保の取り組み

当社の輸送貨物は、高圧ガス、危険物、毒劇物など危険有害性を有する製品が数多くあり、輸送途上における重大な事故は地域の安全や環境に大きな影響を及ぼしかねません。

輸送行為の主体は物流会社にあり、物流会社の協力によりはじめて安全輸送が確保されます。

当社では、危険性物質の輸送を委託している物流会社と物流安全環境協議会を組織し、輸送途上における「事故」「災害」「環境汚染」などの発生を未然に防止するため、一体となって活動を展開しています。

有事に備えた訓練と保安防災

事故発生時に迅速かつ確に対応するために、物流会社と共同で「輸送途上における危険性物質の漏洩、火災」などのケースを設定して、緊急通報・災害拡大防止処置訓練を定期的実施しています。

また、事故を未然に防止するため物流会社の管理者や乗務員を対象に保安教育を実施しています。



物流緊急訓練

化学品安全への取り組み

化学物質が世界的に流通する中、国連は、化学物質が適切に管理されなければ、人の健康や環境に重大な影響を及ぼすおそれがあるとして、化学物質が有する危険性、有害性を取扱者に適正に伝えるため、国際的な「分類・表示」の共通ルール（GHS^{*}）を作成して、それに基づく情報提供の実施を勧告しています。

日本では、法改正により、GHSに則った情報提供が求められており、また環太平洋の諸国や欧州などでは、GHSに則った「化学物質等安全データシート（MSDS^{**}）」「警告ラベル」の各国言語での提供の義務化が開始または準備されています。

特に欧州（EU）は、CLP規則^{**}で、前述のMSDSや警告ラベルの提供に加えて、企業ごとの有害物質の当局への「届出」を義務付けています。

当社は、お客様に当社製品を安全に取り扱っていただくため、化学物質の危険性有害性情報を積極的に取得し、国際的な「分類・表示」のルールに従った情報を各国の言語で「MSDS」「警告ラベル」を通じて、お客様に提供し、適切な使用をお願いしています。

^{*}GHS：化学物質の分類及び表示に関する世界調和システム
^{**}MSDS：提供先（国）により、語句「安全データシート（SDS）」を使用
 CLP規則：EUの化学品の分類、表示、包装に関する規則



GHSシンボルマーク

当社は、グループ全体でお客様に満足し、かつ安心して使用いただける品質の製品とサービスの提供を通じて、お客様との長期的な信頼関係を構築すべく、日々業務にまい進しております。

お取引先との連携

製品安全への要請は、年々高まりつつあります。世界各国において有害物質の含有規制は厳しさを増しており、サプライチェーンでのグリーン調達を通じた調査や保証が強く求められています。これらの要望に迅速かつ確にこたえ、加えて、安全かつ安心感を共有できる製品をお客様に提供するためには、お取引先の協力が不可欠と考えています。当社は、サプライヤーの適正な評価を通じ、公正かつ透明性のある購買方針のもと、お取引先と連携・協力しながら対応を図っていきます。

【購買方針】

『公平・公正な取引』

- ・購買活動に関わる法令の遵守
- ・対等な立場で透明性のある公正な取引を実施

『品質・納期・サービス・安定供給』

- ・安心できる品質の購入品の選定
- ・安定調達面からのお取引先の選定

『パートナーシップ』

- ・お取引先と信頼し合える関係を構築
- ・トラブル発生の際における安定調達面でのリスク回避の検討

『環境情報の適切な入手と評価』

- ・お客様が安心できる製品提供のため、購入品の安全情報入手とサプライヤーの適正評価
- ・地球環境保全の認識に立ち、お取引先のご協力を得ながら、開発、製造、物流、使用、最終消費、廃棄・リサイクルに至るすべての過程において、環境負荷の把握・削減に努める



GSC奨励賞表彰式

Topic

第3回グリーン・サステイナブル・ケミストリー（GSC）奨励賞を受賞

当社はこのたび、独立行政法人産業技術総合研究所（産総研）と共同で研究をおこなってきた、過酸化水素を酸化剤に用いるクリーン酸化技術の機能化学品への展開について、第3回GSC奨励賞を受賞しました。

酸化剤に過酸化酸素を用いる酸化反応は、副生成物は水のみでクリーンな酸化技術です。当社および産総研は、過酸化水素によるラジカルポリマーの一種であるPTMA^{*}への酸化反応の開発をおこない、パイロットスケールでの製造にも成功しました。従来法と比較し、ハロゲンフリー、過酸化水素の高効率使用、安全なPTMAの製造を可能にしました。

本研究の酸化技術は、種々のラジカルポリマーをはじめとして、高純度、ハロゲンフリーが要求される他の機能化学品の製造にも適用することができ、得られるラジカルポリマーの純度は高く、クリーンな方法での製造が要求される電子デバイス材料として適用することができます。また、使用する溶媒は親和性が高いため、他の基質においても同様に高効率、低環境負荷かつ安全な機能性化学品の製造に展開できることが期待され、GSCへ貢献する技術であると考えられます。



^{*}ポリ（2,2,6,6-テトラメチルピペリジン-1-オキシド）メタクリレート

課題 従来法：重金属化合物、有機酸化物、ハロゲン化溶媒

環境、製造負荷大

本研究：実践的過酸化水素酸化技術

過酸化水素	利用効率最大化、副生成物：水
溶媒	ハロゲンフリー、過酸化水素の分解性抑制
触媒	高効率高信頼性、スケールアップに対応

gスケール  Kgスケール 

安全で、クリーンな新技術による PTMA の合成

地域・社会とともに

地域との良好な関係の構築・維持に努めるため、各事業所において「情報開示」と「地域の皆様とのコミュニケーション」活動に取り組んでいます。

子ども向け環境教育の実施

「化学の力で食品サンプルを作ろう!」というテーマで、兵庫県播磨町で「おもしろ教室」を開催しました。レタス、イクラや春雨といった食品サンプルの製作を通じて、ゴミの分別やリサイクルといった環境問題について考える講座で、大変好評をいただいています。



おもしろ教室

地域環境イベントへの協賛

兵庫県姫路市主催の「ひめじ環境フェスティバル」に協賛しており、2013年度も幅広い年齢層が楽しみながら環境問題に対して関心を高めてもらえるようなイベントを出店し、大盛況でした。



ひめじ環境フェスティバル

就業体験の受け入れ

中学生や高校生が、自らの専攻、職業観、生き方などを考える機会として「インターンシップ」や兵庫県の「トライやるウィーク」といった就業体験の受け入れを行っています。



トライやるウィーク

地域の清掃・美化活動

各事業所は定期的に事業所周辺道路や側溝などの構外清掃活動を積極的に行っています。

地域の方との交流

「情報開示」と「地域の皆様とのコミュニケーション」の一環として地域の方に防災訓練の見学や従業員のご家族による工場見学を実施し、当社の取り組みを説明するとともにご意見やご提案を伺う場としています。

株主・投資家とともに

株主、投資家などのステークホルダーならびに広く社会に対して、会社情報を正確、かつ迅速に開示しています。

IRポリシー

当社は、投資家情報(IR情報)を迅速かつ適確に開示することを基本としています。開示にあたっては、法令および証券取引所の規則に従うとともに、当社の事業活動を理解いただくために役立つ情報を提供してまいります。

情報開示方法

情報開示は、公正・適時・公平な開示を基本に、東京証券取引所のTDnet(適時開示情報伝達システム)およびマスコミ(記者クラブなど)を通じて行っています。

●IR情報サイト

当社ウェブサイトでは、決算、業績予想、株主総会などのIR情報を掲載しています。今後とも内容の充実を図っていきます。

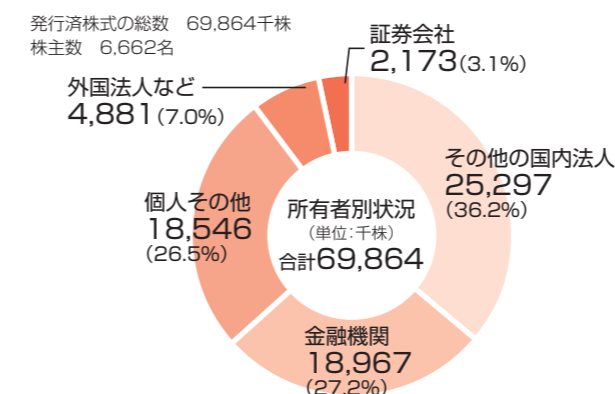


株主・投資家とのコミュニケーション

●株主総会

当社は株主総会を、株主の皆様へ、適切かつ正確な情報を提供し、ご意見を伺うための重要な機会として位置づけています。わかりやすい事業報告に注力し、電子投票制度も採用しています。

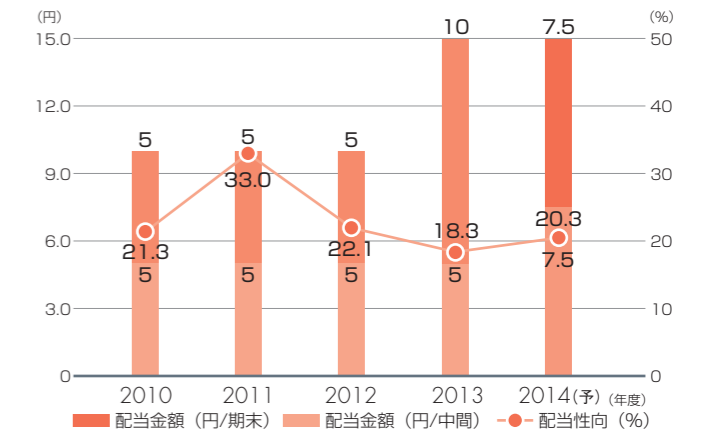
■株式の状況(2014年3月31日現在)



●株主に対する利益還元

当社は、剰余金の配当に関しては、株主還元を経営上の最重要課題の一つと考え、各期の収益状況をベースに、安定的な配当実施および今後の事業展開に備えるための内部留保などを勘案して決定することを基本としています。

■配当推移



●決算説明会

主にアナリスト、機関投資家の皆様を対象に定期的(年2回)に決算説明会を開催しています。決算内容の説明のほか、経営方針、経営計画の進捗状況の説明、質疑応答などを行い、コミュニケーションを図っています。



2013年度決算説明会

インサイダー取引防止への取り組み

当社グループでは、健全な株式取引市場の構築のために、インサイダー取引の未然防止を徹底しています。社内規程により、社員の当社株式取引について、疑義が生じないよう、所定の手続きを実施することを定めています。

企業が持続的に成長を続けるためには、社員の成長が必要不可欠です。当社では「人」を「財産」と考え、自ら考え、成長する“人財”の育成に取り組むとともに、社員が安心して働きやすい職場環境づくりに向けた施策を実施しています。

人事制度・人財育成

目指すべき人財像

個性にあふれた人間が集まって活気ある社風と様々な創造が生まれます。化学の“ちから”で未来を築いていく当社の創造力を絶やさずに発展させるため、社員には次の3つのことを求めています。

社員に求める人財像

- 1 目的・目標を持つこと**
常に高い目的・目標を持ち、自ら取り組む意欲的、行動的な姿勢を持つことを求めています。
- 2 時代の流れを理解すること**
めまぐるしく変化する社会および経済の中で、時代の流れを理解することを求めています。
- 3 世界を意識すること**
世界を意識したプロフェッショナルになることを求めています。

人事制度の概要

当社の人事制度では、役割をベースに、成果主義によるやりがいのある人事制度を導入しています。従業員が自らの能力を高め、その職務、役割を認識し、成果の達成度によって処遇していくことにより、一層やりがいのある制度を目指します。

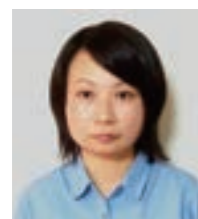
自らの役割を認識した中で、個々人が成果を上げることによって、職場の成果や、ひいては会社の業績向上につながることはもちろん、自分自身の成長とやりがいにつながります。

グローバルタレント養成コースを終えて

RC室 濱側 美由起

グローバルタレント養成コースの開講から15ヶ月が経過し、国内研修が修了しました。

国内研修の前半は、異文化理解や論理的思考力、コミュニケーションスキル、またマーケティング、アカウントティング、マネジメントに関する知識などを幅広く吸収するための期間でした。休日を利用してビジネススクールや語学スクールに通い個別



にスキルを高め、並行して2ヶ月に一度は社内研修で全員が集まり、受講生同士刺激しあいながら、様々な知識を学びました。

2013年8月に開催された中間報告会では、学んだことを踏まえ、受講生一人ひとりが成し遂げたい役割を発表しまし

た。その後の国内研修の後半では、これまで学んできた知識を職場で実践すること、そして海外研修の課題を自分自身で設定することを中心に「アウトプット」に主眼を置いた教育カリキュラムへと移行しました。

海外研修の課題を考える過程を通して、様々な関係者の助言やご協力をいただきながら、当社やそれぞれの職場の環境や課題、周囲の期待を知ることができました。自分自身が成し遂げたいことは何か、自分自身がやるべきことは何かを考えることで、『外で通用する人財』になるためのそれぞれの課題や目標が明確になったと実感できました。

さあ、いよいよ、N.Y.において実地研修です。色々な困難もあるでしょうが、国内で学んだことを活かすチャンス、多くのことを吸収してまいります！

人財育成プログラム

社員の能力開発を支援するために、次の5つのカテゴリを中心とした様々なプログラムが用意されています。

階層別研修

幹部候補研修、部長職研修、新任管理職研修、RC教育、エルダー研修、新入社員研修 など

知識・スキル研修

基礎知識(法務・経理・知財など)研修、MOT講座、MBA講座 など

技術・技能伝承研修

製造課長研修、技術教育(応用・基礎・新人)、製造監督者研修 など

グローバル化支援

社内TOEIC試験、英文ライティング講座、会話レッスン、海外赴任前研修、グローバルタレント養成コース など

自己啓発

通信教育受講援助、公的資格取得援助 など



技術教育

当社では、経験・知識の豊富なベテラン社員を講師として、社内技術・技能伝承教育を実施し、若手の早期戦力化に役立っています。

- 新入社員技術教育
- 技術教育基礎コース
- 技術教育応用コース



技術教育

外国語教育プログラム

中期経営計画「SEIKA PLAN 2015」の達成には、企業のグローバル化はもちろん、社員のグローバル化も必要となります。

国内だけにとどまらず、国外にも通用するグローバルなプロフェッショナル人財の育成に向けて、様々な外国語教育にも力を注いでいます。

- 社内TOEIC試験
- 英会話プライベートレッスン
- 英会話 (presentation、meeting) グループレッスン
- 中国語グループレッスン



英会話グループレッスンの様子

グローバル人財の育成

事業の海外展開に対応するため、当社グループではグローバルに活躍する人財の必要性が高まっており、2012年に若手のグローバル人財の早期育成を目的とした「グローバルタレント養成コース」を開講しました。グローバルに活躍するために必要とされる知識・技能を国内での研修で習得したうえで、実際に数カ月間海外グループ拠点において業務を経験し、再び国内でその実務の中で気づいた課題に取り組むことを通じて個々の能力を開発していくプログラムです。第1期生は12名、第2期生は9名が選抜されました。グローバル人財の育成は当社グループの成長には不可欠であり、今後も継続的な育成に取り組んでまいります。

働きやすい環境づくり

定年後の再雇用—再雇用制度の利用促進

当社では、定年退職者の方の知識・技能を活かし、業務効率化や後継者育成を図るため、再雇用制度を導入しています。

再雇用者数の推移

年度	2009	2010	2011	2012	2013
定年退職者数(人)	34	38	35	30	11
再雇用者数(人)	20	25	22	15	10
再雇用率	59%	66%	63%	50%	91%

障がい者の雇用促進

当社では、障がい者に対する雇用機会の創出を重要な課題ととらえ、公的関係機関などと連携をとりながら、障がい者の雇用促進も図っています。

人権尊重・ハラスメント防止に向けて

当社では、入社時、管理職登用時に研修を実施するとともに、労使で選任した相談窓口責任者・担当者を各事業所に配置し、従業員からの質問や相談に対応できる体制を整備しています。



セクハラ相談員研修会の様子

メンタルヘルスの取り組み

当社では、2010年度からメンタルヘルス疾患に対する取り組みとして、社外機関と連携したEAP制度[※]を導入しています。また、メンタルヘルス疾患に対するセルフケアを目的にストレスチェックを全従業員対象に実施することで、メンタルヘルス疾患への予防と早期発見に努めるとともに、メンタルヘルス疾患で長期休業している従業員の復職を支援する制度(リハビリ勤務)も導入するなど、フォローに努めています。

※EAP制度…Employee Assistance Program 従業員支援プログラム



メンタルヘルス・セルフケア研修の様子

健全な労使関係

当社労働組合とは、お互いの立場を尊重しながら、企業の更なる発展と従業員の成長ならびに働きやすい環境づくりに向けて様々な施策に労使共同で取り組んでいます。

安定的な労使関係の維持と将来に向けた施策に対する意見交換の場として中央労使協議会や中央労使環境安全委員会、各事業所における支部労使協議会などを活用しながら、労使の共通認識の形成に努めています。

01

別府工場



山本 正人
別府工場長

[方針] あいさつ、5S等の基本活動を通じ、安全・環境・品質を大切にす意識の醸成と、従業員が、誇りをもって、健康でいきいきと働ける事業所づくりを推進いたします。そして、合理的で生産性の高いものづくりへチャレンジするとともに、安全で質の高い生産活動を展開し続けることで、地域ならびに顧客から信頼される事業所となることを目指します。安全安心の基盤を強固なものとするため、リスクマネジメントのレベル向上に力を注ぎます。

- 所在地：兵庫県加古郡播磨町宮西346番地の1
- 従業員数：327名
- 生産品目：精密化学品、ガス製品など

2013年度の活動結果

2013年度の安全成績については、別府地区で働く社員ならびに協力会社が共に、休業災害、不休災害、300事故(当社固有の表現で、念の為医師の診察を受けたが治療不要であったものについてもこのように称してカウント)の何れもゼロという“完全無災害”を達成することができました。記録が残る1965年以降初の快挙で、地区の安全は地区で働く一人ひとりが作り込んでいくものという意識が着実に浸透してきている証と考えています。

しかしながら、現場の最前線では、配管からのガス漏洩や、製品への異物混入などのトラブルが発生しているのも事実です。変更管理ならびにリスクアセスメントなど予防に磨きをかけ、今後も更なるレベルアップを図って参ります。

エネルギー(原油換算)		12,700kl/年
大気	CO ₂	73,500t/年
	SOx	5.1t/年
	NOx	7.6t/年
排水	排水量	1,824千m ³ /年
	COD	18.1t/年
廃棄物	発生量	8,500t/年
	リサイクル率	51%
	埋立量	103t/年
PRTR 法対象物質(大気排出量)		2.5t/年

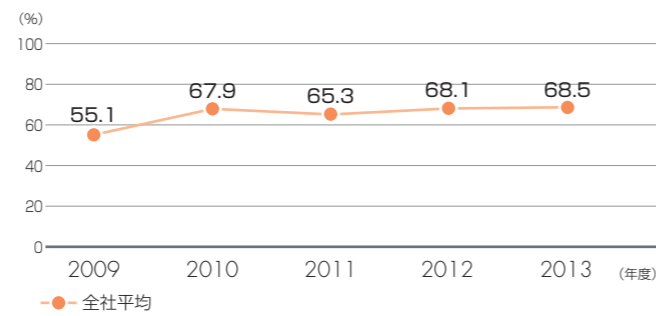
厚生施設の拡充

当社では、働きやすい環境づくりの一環として、厚生施設の拡充を図っています。



独身寮(八家寮)

有給休暇取得率の推移



計画年休・アニバーサリー休暇取得状況の推移

	取得率(%)		
	2011年度	2012年度	2013年度
計画年休	66.6	64.1	66.5
アニバーサリー休暇	78.1	76.7	82.2

育児・介護休業者に対する支援

社員の職業生活と家庭生活の両立を支援するために、「育児休業制度」「介護休業制度」をはじめとして、出産、育児、介護にまつわる各種制度を導入しています。

2013年度の実績：育児休業3名、介護休業1名、介護短時間勤務1名

育児・介護関連制度一覧

制度名	内容
育児休業	出産後の育児のために取得可能(原則、子が1歳に達するまで)
介護休業	家族の介護のために取得可能(1年間)
配偶者出産休暇	配偶者が出産するとき(2日)
子の看護休暇	子の負傷・疾病に対する世話のために取得可能(1年間に5日/人)
介護休暇	要介護状態にある家族の介護のために取得可能(1年間に5日/人)
所定外労働の免除	3歳に満たない子を養育する社員が当該子を養育するために申出可能
育児短時間勤務	同上(原則、小学校3年生までの子を養育する社員、1日当たり2時間を限度に30分単位で短縮可能)
介護短時間勤務	要介護状態にある家族の介護のために申出可能(要介護状態にある家族を介護する社員、限度時間は同上)

ワーク・ライフ・バランスの推進

当社では、労働時間の短縮や各種休暇制度の充実など、従業員のワーク・ライフ・バランスに向けた施策を継続的に実施しています。

実労働時間短縮に向けて

2010年度から計画年休(年3日)・アニバーサリー休暇(年1日)制度を導入し、有給休暇取得率の向上を図るとともに、事業所ごとにノー残業Dayを設置するなど、従業員の実労働時間の短縮に向けて取り組んでいます。

制度導入後、有給休暇取得率は向上しておりますが、更なる取得率の向上を図り、実労働時間短縮を実現させてまいります。

02

姫路工場



榎本 弘信
姫路工場長

[方針] 「安全で安心な工場」「地域・顧客から信頼される工場」を目標に、関係会社、協力会社を含めた姫路地区で働く全従業員が一歩高いレベルを目指し、「基本動作」「ルール、躰」を意識し、「真の美しい工場」を目指します。

- 所在地：兵庫県姫路市飾磨区入船町1番地
- 従業員数：377名
- 生産品目：吸水性樹脂、水溶性ポリマー、微粒子ポリマーなど

2013年度の活動結果

2013年度は、大型投資した各設備の早期安定操業に注力し、“安全をすべてに優先させる”ものづくりをあげ、“従業員が明るく、安心して働ける工場を築くことが地区の活性化をもたらし、工場、ひいては会社の持続的成長につながる”ことを目指してきました。その結果、RC活動を基軸とした安全・安定操業を継続することで高水準の稼働率を保ち、増産対応、損益改善、研究開発、姫路版TPM活動等を円滑に進めることができました。今後も、構内で働くすべての従業員の全員参加による5S活動やリスク管理を進めていきます。

エネルギー(原油換算)		67,900kl/年
大気	CO ₂	131,000t/年
	SOx	- t/年
	NOx	55.7t/年
排水	排水量	2,100千m ³ /年
	COD	14.1t/年
廃棄物	発生量	2,600t/年
	リサイクル率	91%
	埋立量	8t/年
PRTR 法対象物質(大気排出量)		98t/年

03 千葉工場

[方針] 千葉工場は「安全をすべてに優先させる」ことを基本に、無事故・無災害の継続、環境保全、顧客重視の品質向上を常に意識し、CS2乗（クリーン&セーフティ、コミュニケーション&スピード）工場を合言葉として地域や顧客から信頼される工場づくりを目指します。

- 所在地：千葉県八千代市上高野1384番地の1
- 従業員数：74名
- 生産品目：ガス製品、粉末プラスチックなど



赤藤 敬司
千葉工場長

2013年度の活動結果

従業員一人ひとりがレスポンシブル・ケア活動での自らの役割を意識し、構内協力会社とともに安全・安定操業、小さなリスクを摘み取る活動に努めた成果として、2013年8月に工場目標10,000日につながる無災害記録9,000日を達成しました。

また、数々のアイデア提案・改善活動により生産工程や職場環境の見直しを行い、省エネやコスト削減だけでなく廃棄物の削減にも寄与できました。

今後、更に高い目標に向けて課題にチャレンジしていくために、コミュニケーションと知恵の共有を大切に、快適な職場づくりと地域社会に貢献できる工場を目指していきます。

エネルギー（原油換算）		1,930kl/年
大気	CO ₂	4,350t/年
	SO _x	- t/年
	NO _x	0.2 t/年
排水	排水量	400千m ³ /年
	COD	0.4t/年
廃棄物	発生量	214t/年
	リサイクル率	17%
	埋立	0t/年
PRTR 法対象物質（大気排出量）		7.8t/年

04 スミトモセイカシンガポールPte.Ltd.

- [方針]** 1.安全と衛生を確保し、安定操業および安全衛生水準の維持に努めます。
 2.顧客が満足する品質の製品とサービスを提供します。
 3.エネルギーや資源の使用に責任を持ち、環境保護に努めます。
 4.法規制を遵守し、社会規範に則り活動します。

- 所在地：17 SAKRA ROAD SINGAPORE
- 従業員数：42名
- 生産品目：高吸水性樹脂（SAP）



Wong Chee Seng
スミトモセイカシンガポール工場長

2013年度の活動結果

私達のレスポンシブル・ケア活動における努力が評価され、Singapore Chemical Industry Council（シンガポールの化学工業会）より、Process Safety、Employee Health and Safety、Community Awareness and Emergency Responseの3コードについて達成賞を受賞しました。今後も安全、健康、環境保全、高い製品品質および顧客満足の保証に努めます。

エネルギー（原油換算）		33,500kl/年
大気	CO ₂	43,900t/年
	SO _x	- t/年
	NO _x	- t/年
排水	排水量	142千m ³ /年
	COD	116t/年
廃棄物	発生量	958t/年
	リサイクル率	- %
	埋立	939t/年
PRTR 法対象物質（大気排出量）		- t/年

05 台湾住精科技（股）有限公司

[方針]「安全、環境、品質に関する経営基本方針」に基づき、1.無事故・無災害による安定操業、2.環境保全、3.化学品の安全管理、4.顧客重視の品質保証、5.社会とのコミュニケーションを掲げ、活動を通じて競争力を高めるとともに顧客の信頼を得て、社会的責任を果たします。

- 所在地：彰化縣線西鄉寶工業區西四路2號
- 従業員数：31名
- 生産品目：高純度アンモニア



沈 清德
台湾住精科技工場長

2013年度の活動結果

2011年に休業災害を発生させたことから、2012年より初心に戻り、保護衣着用を徹底し、基本的な原理、SOP教育・緊急訓練等および5S活動を実施し、身の回りの整理・整頓と、職場を清潔に保つように心掛けてきました。

また、「2013年度RC監査および品質監査」以後、リスクアセスメントの見直しを実施し、指差呼称をするように変わるなど、安全意識の向上、基本能力の強化を図っています。

2014年7月の無事故無災害1,000日達成を通過点に、引続き安全・安定操業を継続していきます。



安全教育

06 住精ケミカル株式会社

[方針]「無事故・無災害の達成による従業員と地域社会の安全確保」、「顧客が満足し、かつ安心して使用できる品質の製品とサービスの安定供給」に則り、事業活動を展開します。

- 所在地：京畿道 坡州・長安
- 従業員数：27名
- 生産品目：高純度アンモニアなど



丁 一成
住精ケミカル株式会社工場長

2013年度の活動結果

2013年度は「長安工場の早期稼働確保と損益への貢献」および「長安を含む全社経営システム（ISO9001、ISO14001等）の構築」を主として活動展開し、4月に長安工場のNO_xに対しISO9001を追加認定し、8月には新規にISO14001を取得しました。

また、長安工場の各種ガス分析技術および運転技術の早期習得と向上など、両工場の要員レベルアップに注力する一方、坡州工場においては、更なる原単位改善を推進しました。

しかし、安全・環境においては、6月に漏洩トラブル1件、1月に休業災害1件と不休災害1件が発生するという残念な結果に終わりました。従業員一人ひとりの感性を高め、全社へ安全意識を浸透させていきます。

2014年度は①的確な設備保全計画の実行、②工場の安全管理体制の見直し・改善を重点課題として、更なる安全強化に取り組んでまいります。



安全教育

07

住精科技(揚州)有限公司

【方針】「安全をすべてに優先させる」ことを基本に「無事故・無災害」、「顧客重視」、「社会との共存共栄」を基本理念として活動し、質の高い製品とサービスを提供することにより、社会の発展に寄与し、かつ持続可能な社会の形成に貢献します。

- 所在地：中国儀征市青山鎮創業路9-9
- 従業員数：25名
- 生産品目：高純度アンモニア



巖 宝平
住精科技(揚州) 製造課長

2013年度の活動結果

2013年度に実施した二期改造工事および保全体制の強化を通して設備トラブルの早期発見及び安全・安定操業体制の基礎を築くことができました。また、ISO9001認証取得に伴い各作業手順書の見直しと再教育の実施、現場安全作業監督委員の設置により、2013年度は「無事故・無災害」を達成しました。

品質面においては、品質クレームの削減と従業員の品質意識の向上を目的とした教育を随時実施し、「顧客重視」を常に念頭に置き、顧客に満足していただけるような安定した品質の製品提供に努めてまいりました。

今後は、更なる生産条件の改善を通して環境に負荷を与える廃棄物量の抑制、原料・製品・副製品に対する安全性の確保、従業員・物流関係者・顧客など弊社に関係するすべての人々の健康障害を防止し「社会との共存共栄」がより図れる会社を目指します。



安全教育

報告書Webサイトのご案内

本報告書および過去の報告書は、当社HPにも掲載していますので併せてご覧ください。



<http://www.sumitomoseika.co.jp/csr/responsiblecare/index.html>



「CSR報告書 2014」 第三者検証 意見書

2014年7月28日

住友精化株式会社
代表取締役社長 上田 雄介 殿

一般社団法人 日本化学工業協会
レスポンスブル・ケア検証センター長

高瀬純治



■ 報告書検証の目的

本報告書検証は、住友精化株式会社で作成した「CSR報告書2014」(以後、報告書と略す)に記載された下記の事項について、化学業界の専門家としての意見を表明することを目的としています。なお、検証範囲は環境・安全・健康に係る事項に限定しています。

- 1) パフォーマンス指標(数値)の算出・集計方法の合理性及び数値の正確性
- 2) 数値以外の記載情報の正確性
- 3) レスポンスブル・ケア活動内容
- 4) 報告書の特徴

■ 検証の手順

- ・本社において、各サイト(事業所、工場)から報告される数値の集計方法の合理性、及び数値以外の記載情報の正確性について調査を行いました。調査は、報告書の内容について各業務責任者及び報告書作成責任者に質問すること、並びにそれぞれの責任者より資料提示と説明を受けることにより行いました。
- ・別府工場において、本社に報告する数値の算出方法の合理性、数値の正確性及び数値以外の記載情報の正確性の調査を行いました。この調査は、各業務責任者及び報告書作成責任者への質問とその資料提示及び説明を受けること、並びに証拠物件と照合することにより行いました。
- ・数値及び記載情報の調査についてはサンプリング手法を適用しました。

■ 意見

- 1) パフォーマンス指標(数値)の算出・集計方法の合理性及び数値の正確性について
 - ・数値の算出・集計方法は、本社及び別府工場において、合理的な方法を採用しています。
 - ・調査した範囲において、パフォーマンスの数値は正確に算出・集計されています。
- 2) 数値以外の記載情報の正確性について
 - ・報告書に記載された情報は、正確であることを確認しました。原案段階では表現の適切性、文章のわかりやすさについて若干の指摘をしましたが、現報告書では指摘事項は修正されています。
- 3) レスポンスブル・ケア活動内容について
 - ・RC 活動に品質活動を組み入れていること、工場の品質監査を頻繁に行い、品質異常に対し「なぜなぜ分析」を適用する等、レベルの高い品質管理を行っていることを評価します。今後、品質と安全に関する情報の共有化を更に進められることを期待します。
 - ・別府工場が、2013年度、休業災害、及び不休業災害ゼロを、協力業者を含め達成されたことを評価します。また、日本化学工業協会発行の「保安事故防止ガイドライン」が実情に合わない場合、チェック項目の読み替えを行い、更に自社の「プラント安全チェックリスト」との融合を検討する等、その活用に努力されている点を評価します。
 - ・別府工場は地域とのコミュニケーションをよく行っています。特に、地域の人を交えての防災訓練は素晴らしいことと評価します。地域住民の避難誘導まで含めての訓練が行われれば、先進的事例となるでしょう。期待しています。
- 4) 報告書の特徴について
 - ・報告書は、廃棄物処理フロー図の改善、環境会計の2年間併記等、継続的改善が着実に進められています。
 - ・CSR に係る事項が、バランスよく配置され、わかりやすい内容となっています。今後、特集を組む等、読者へのメッセージ性を更に高める工夫をされることを期待します。

以上